編集委員長に就任して

九州大学大学院工学研究院　今任　稔彦

昨年度より編集委員長の酒井忠雄先生のもとで１年間共編集委員長として編集のやり方を教わりながら、本年の１月より実質的な編集委員長をさせていただくことになりました。ここに、編集委員長就任にあたり、この紙面を借りてご挨拶申し上げます。

振り返りますと、創刊間のない 1986 年 3 巻 1 号より 1991 年の 8 巻 2 号まで与座範政先生とご一緒に編集業務に携わって参りましたので、再登板ということになりますが、編集委員長としての仕事は、これが初めてということになります。これまで発行されました 21 巻 1 号までの会誌を見てみますと、歴代の編集委員長には、1992 年 9 巻 1 号から 1995 年 12 巻 2 号まで和田弘子先生が、1996 年 13 巻 1 号から 1997 年 14 巻 2 号まで河嶌拓治先生が、そして 1998 年 15 巻 1 号から本号まで酒井忠雄先生が務められました。この間、滞ることなく充実した会誌が発行され、これも歴代編集委員長の方々のご尽力の賜物と存じます。特に、酒井先生が編集委員長をお務めの間には、会誌に新しい息吹を吹き込まれました。従来の B5 版から A4 版化が行われるとともに、長年 FIA 研究や FIA 装置の開発をリードしてこられた先駆者の先生方、企業の方にご執筆いただくパーソナルレビュー欄や、FIA のいろいろな分野において易しく説いた解説欄、研究者ご自身の研究を英文でまとめたミニレビュー欄などを新設になられました。また、積極的に外国の FIA 研究者をアドバイザリーボードに迎えられ、本会誌の巻頭言などの執筆を依頼されました。ICFIA やフローアナリシス国際会議においても外国の研究者との交流を深められ、外国から本会誌への研究論文の投稿を促進されました。Journal of Flow Injection Analysis の雑誌名にふさわしい、国際的なジャーナルになってまいりました。

本研究懇談会には、FIA の分析法としての基礎理論から応用などの研究をしている研究者の方、FIA 法を一つの分析法として利用するユーザーの方、あるいは FIA の装置を開発する方など、多くの分野の方々が会員として所属されています。従いまして、この研究懇談会会誌は会員の皆様方のための会誌でありますので、皆様が役に立つ会誌、情報が交換できるような有意義な会誌でなければならないと思っております。Bibliography 欄もこれまでご担当いただきました先生方のお蔭で、集めれた論文数も 8000 報にもなろうとしております。この財産をさらに使いやすくすべく、現在ご担当の受田先生からは検索可能なデーターベース化するアイデアをご提案いただいております。今後とも役に立つ情報を掲載して行きたいと存じますので、会員の皆様には、ご要望などがありましたら編集委員会に是非お知らせください。編集委員一同、今後も努力して新しい企画なども設けて行きたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。